

X-NIHONBASHI

—街づくりを通じた宇宙ビジネスの拡大へ—

三井不動産取締役専務執行役員

植田 俊

うえだ たかし



三井不動産は2019年に発表した「日本橋再生計画第3ステージ」における重点構想

「新たな産業の創造」の戦略カテゴリーとして宇宙領域を定め、日本橋の街づくりを通じて宇宙ビジネスの拡大に貢献するプロジェクト「X-NIHONBASHI(クロス・ニホンバシ)」を推進している。将来の市場拡大が期待されているだけでなく、人類や地球規模の課題解決につながる可能性を秘めている宇宙ビジネス。当社の本業である街づくりを通じた新たな産業創出への挑戦の経緯を紹介したい。

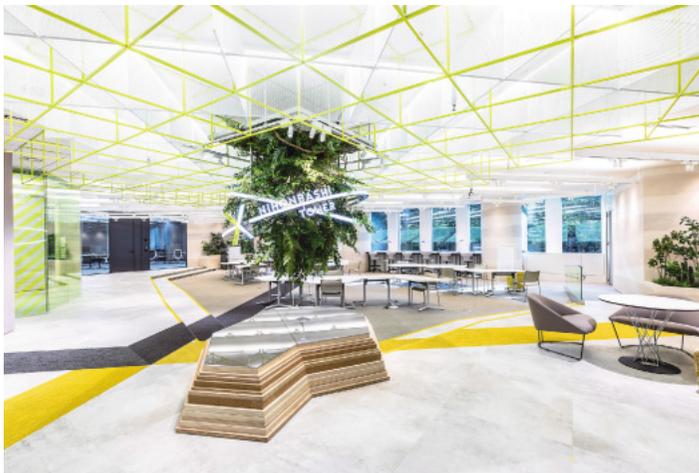
日本橋再生計画・産業創造

1990年代末、バブルの崩壊後に活気が失われていた日本橋の街に、もう一度賑わいを取り戻そう、と地元・官民が一体となり日本橋再生計画が始まった。20年以上にわたって進めてきた日本橋再生計画において、地域共生、界隈創生、水都再生と並ぶ街づくりの柱として取り組んでいるテーマが「産業創造」であり、社会課題の解決に資する将来性ある産業の創出・拡大を、街づくりを通じて支援する取り組みである。

江戸時代に薬種問屋が集まり、今も数多くの製薬企業が集積する歴史的背景と、健康長寿という社会課題解決に貢献するため、2016年にライフサイエンス領域の産学官とともにオープンイノベーション推進事業を開始した。多様なプレーヤーが集まるオフィス、カンファレンスホール等の「場」の提供に加え、イベントやプログラムの開催を通じて様々な「機会」を創出・提供する、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)を設立した。現在、15カ所のライフサイエンス拠点を設置し、年



宇宙ビジネス拠点X-NIHONBASHI



X-NIHONBASHI TOWER

間500件を超えるイベントの主催・誘致により、ライフサイエンス産業にかかわる国内外からの人・情報・プロジェクト等の集積が実現しつつある。このライフサイエンス・イノベーション推進事業が、当社が「宇宙」領域のイノベーション推進事業に取り組み始める素地であり、JAXAとのご縁はLINK-Jに加入いただいたことがきっかけであった。

「場の提供」宇宙ビジネス拠点 X-NIHONBASHI・ X-NIHONBASHI TOWER

2018年に、宇宙関係者が集まり連携する場として「宇宙ビジネス拠点X-NIHONBASHI」を開設した。宇宙スタートアップが次々と立ち上がり、産学官のプレーヤーの

方々の共創する「場」を求めるニーズが高まっていた時期と重なり、宇宙ビジネス拠点X-NIHONBASHIでは開設初年度から、年間200回以上の宇宙関連イベントが開催された。その後、宇宙ビジネス拠点X-NIHONBASHIや、既に取り組んでいたライフサイエンス・イノベーション推進事業での実績を評価していただき、2020年6月にJAXAのオープンイノベーションによるビジネス創出プログラム(J-SPARC)の活動拠点に、日本橋を選定していただいたことで、新たな拠点設置に向けた動きが始まり、2020年12月、2つ目の拠点として「X-NIHONBASHI TOWER」を日本橋三井タワーに開設した。

これら2つの拠点は、コワーキング&カンファレンススペース、プロジェクトルーム、オンライン配信スタジオを備え、JAXA、iSpace、宇宙サーブイノベーションラボ、天地人、将来宇宙輸送システム、自治体や社団法人等、20を超える宇宙関連企業、団体が拠点を構えている。また、宇宙ビジネス拠点X-NIHONBASHIの開設当初から入居していただいていた、Space BDが短期

間で飛躍的な成長を遂げ、日本橋エリア内で拡大移転したことは、大変うれしく、喜ばしいことであった。

「機会の舞台」X-NIHONBASHI Global Hub-NIHONBASHI SPACE WEEK

宇宙領域のイノベーション推進には、「場」



NIHONBASHI SPACE WEEKの様子

を整備するだけでなく、様々なプレーヤーとともに「機会」を提供することが極めて重要と考えている。そこで2021年から、JAXAとの共催プログラムであるX-NIHONBASHI Global Hubを開始した。これはJAXAが持つ海外宇宙機関とのネットワークと、当社が有する「場」を活用したマッチングノ

ウハウを持ち寄り共創する、日本と海外企業の連携推進を図るビジネスマッチングイベントである。これまでに4回、アメリカ航空宇宙局(NASA)とフランス国立宇宙研究センター(CNES)とイベントを開催した。ありがたいことに他の欧州、アジア等の宇宙機関からも連携依頼が寄せられており、今後も拡大を予定している。

また、2021年12月にアジア最大規模の宇宙ビジネスイベントを、1週間にわたり日本橋で初めて開催し、延べ6000人の産学官のプレーヤーにご参加いただいた。開催期間中に参加者から「新たな宇宙事業につながる偶然の出会いや気付きがあった」との声が多く聞かれた。世界の宇宙開発が官から民へとシフトする変革期にある中で、産学官の多様な層の宇宙関係者が顔を合わせることで新

たな「化学反応」が生まれやすくなっている。集中開催によって関係者の出会いやネットワークの機会を増やし、宇宙産業のさらなる成長に貢献したいと考えている。2022年はさらに規模を拡大し、12月12日～16日に開催を予定している。

宇宙と言うと、「夢がある」というイメージが先行しがちであるが、もう宇宙は「夢」ではない。宇宙に関する壮大なプロジェクトを聞かたび、私は19世紀のSF作家、ジュール・ヴェルヌの「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」という言葉を思い出す。宇宙ビジネスは、もはや遠い世界の話ではなく、我々が生きる地上の生活にイノベーションをもたらすものであり、まさにヴェルヌの名言を体現する産業領域と言えるだろう。

江戸の時代、五街道の起点であったこの日本橋から6つ目の街道、「宇宙への道」を創っていく志で、「X-NIHONBASHI」プロジェクトを進めていく。産・学・官、多種多様なパートナーの皆さまの参画をお待ちしている。